

第54回東京同窓会総会・懇親会／振り返り

(青字は特に濱田実行委員長による総括)

- スタートとしてのオフライン（会合）オンライン併用
 - ・新型コロナウイルスが収まりを見せない中、併用方式での開催を模索した。
同窓会新年会（松本）1月3日がテレビ松本協力のもと Zoom を使ったオンラインで開催された実績も後押しとなった。
 - ・GW 前までの段階では、アルカディア市ヶ谷、松本二大拠点と、Zoom 画面は20用意することした。Zoom 画面については、松本と東京に同窓関係の店に一定の会員に集まってもらい、それらをネットワークする構想であった。また、アルカディア人数は50人程度を想定していた。
 - ・GW 明け5月6日、コロナ収まらずさらに人の集まる場についてはできるだけ削減するべきではないか、ということで松本と東京の同窓関係の店への参集を断念。アルカディア人数もさらに見直すこととした。
 - ・5月20日には Zoom の画面を25に拡大することとした。
 - ・会場のアルカディア市ヶ谷、松本スタジオ以外に予め決めさせてもらった Zoom 参加者（以下「Zoom 出席者」という）と YouTube 視聴者の中間に、申し込みをもらって Zoom で参加できる方を募ることを考えていた。これが会の広報、参加（視聴）募集の上で混乱を招いた。結果的に Zoom 参加者は募らないこととなったが、この当初構想からの切り替えがスムーズにいかなかった。（Zoom 出席者の数が最後までわからず、画面上でも多数になれば収集がつかなくなるので、結果的にはそれでよかったが）
- 広報・周知
 - ・HP の初回案内から直前の案内、総括のメッセージまで佐原様と連携できた点、それぞれのタイミングで SNS を活用した周知を工夫した点は上手く機能していた。
 - ・オンライン参加の方法や Zoom の参加に関する案内に関してはもっと早い段階で準備しておく必要があった。Zoom で参加できる可能性を残しながら、それを断念した告知、また YouTube の申し込みが分かりにくかったこと、視聴案内が遅れたことは反省。YouTube は申し込まなくても反響を知りたかったこと、登録してもらうことで最新の会員情報を得る目的もあったが、それに回答をもらうことが視聴の条件になっていたわけではない。
 - ・会員一斉メールも行ったが、会報あがた配布 2,150 部に比してアドレスを把握しているのが 326 件、不達もあり実際届いていると思われるのはもっと少ない。**回期幹事を通じた会員への告知について、何人の手ごたえがあったかなどのフィードバックがない。**

●協賛金と収支

- ・寄付、懇親会費など、限られた状況の中で多数の協力を得られたことに感謝、改めて縣陵東京同窓会の結びつきの強さを感じた。
- ・振込みの際に協賛金、寄付金、懇親会費など費目の混在があった。
- ・賛助金のめやす 500 円/口最低 2 口はまずまずか。賛助金 206,000 円は予定 (30 万円 (2 口×1,000 人)) を下まわったが、寄付金 180,000 円は予想を超えて協力を頂いた。計 386,000 円 105 人、平均 3,676 円。
- ・**大口の寄付者についてはどこかで銘記顕彰も考えては。**
- ・会報あがた配布 2,150 部に対して、返信はがき 152。Google Form 返信 20 はあまりに寂しい。
- ・アルカディア市ヶ谷参加者は 12 名に留めたため、200~300 名という多数参集によって会場固定費を賄える例年と異なり、協賛金も当てにはしながらも経常収支としては苦しいことは目に見えていた。オンライン配信という一定の「質」も求められる中、テレビ松本ケーブルビジョンの力は非常に大きかったが、その経費について本部から 50 万円を支援頂いた英断に感謝したい。実行委員会も史上最低限の人員であり、活動費も廉価で済んでおり、結果約 20 万円の本部繰入金を残すことができた。濱田実行委員長の個人的な尽力も大きかった。
- ・オンラインからの協賛金・寄付を受け付ける仕組みを整備する事で比較的若い世代を取り込めるのではないか。
- ・アルカディア市ヶ谷も「パーティープラン」という時宜に叶ったメニューを用意してくれていたことで、**会場関係費は約 5 万円割り引きされた**。コロナ渦での会場利用を意気にかけてくれたことに留まらず、継続して開催される縣陵には一目置いてくれている。

●会場、進行

- ・TV 松本様のご協力のもと概ね台本に沿った運営ができた。一部シナリオがズレたり資料が揃わない箇所があったが、大きなトラブルはなかった。
- ・Zoom 参加者とのラインつながりにもたついた。
アルカディアのプロジェクトが旧式。今後使うならば課題。
シナリオ最新版が TV 松本スタッフまで行き届かなかったのと、リハーサルで十分確認できなかったことは反省点。
- ・YouTube の Zoom 画面は鮮明で、25 にした的確なアドバイスを頂いたテレビ松本須崎専務ほか関係者に感謝したい。**YouTube 視聴者数は 8 月 26 日現在 1,436。**
- ・時間の経過について
総会閉会 予定 13:14 実施 13:11
懇親会松本紹介 予定 13:21 まで 実施 13:27 校長、会長ここで一言あり
Zoom メンバー紹介 予定 13:30 まで 実施 13:36
乾杯 予定 13:45 実施 13:50

企画 0-1、2、3 まで 予定 14:12 実施 14:14

企画 2 予定 14:37~15:30 実施 14:41~15:30 予定を 45 分以上超過

覇権の剣 予定 15:08 実施 15:38

閉会の辞 予定 15:22 実施 15:47

15:30 完全終了を考えていたが、会場としては時間余裕あり完全撤退 16:30 問題なし。

●全般

- ・一年間にわたる準備期間中、コロナ禍の推移から目が離せず、「密」・「集まり」を回避する行動様式が求められる状態が続いた。「集まる」ことそのものに反対する会員からの声も寄せられた。情勢を読みながら、実施形態については慎重かつ果敢に修正を図る必要があると認識して進めてきた。最終的には 2 つのキーステーション（松本とアルカディア）は総会・懇親会執行のスタジオとして位置付け、それ以外の拠点については設けないこととした。2 つのキーステーションについては、「会食」とはせず、午前中から準備し夕方までの長丁場ゆえに食事は用意するが、「コロナ対応遵守事項」を用意し、十分理解したうえで参加頂くこととした。
- ・アルカディア市ヶ谷という経費もかかる会場である必要はないのではないか、という点についても検討した。オンライン環境、総会としてのしつらえなどが相対的に優れていること、縣陵東京同窓会をよく知り、様々な要望等にに応じてくれること、今後環境が整えば再び一堂に会する将来を描くと 2008 年から毎年利用してきた同会場を拠点とすることとした。
- ・年間を通じて終始コロナ禍の影響を見極めながらの準備・開催となったが、幹事会をはじめとして同窓会のサポートとご理解のもとオフライン形式での同窓会総会・懇親会を無事に執り行えたことは今後の開催方式に新しい選択肢を加えることにもつながり、一定の意義があったと感じている。

●実行委員会を経験しての気付きと今後の検討課題など

- ・コロナ禍で直接集まるのが難しくなり、活動の全体像や今まで蓄積されてきた運営のノウハウや、個別の活動や準備作業(会報あがたの作成、総会・懇親会)の持つ意義や意味合いを理解するのが難しくなっている。特に実行委員の代は初めて同窓会活動に関わる人も多く期間が一年しかないため、どのように理解してもらい活動を引き継いでもらうかが今後の課題の一つだと考える。
- ・備品類の取り扱いも実行委員持ち回りでなく、同窓会として管理といった方法も検討できるか。
- ・寄付金や協賛金のオンライン化を進める。
- ・若い世代の取り込み、同窓会活動の意義、在り方の再確認。
- ・各委員会や同窓生の集まりを月一回くらいずつ開催する。